



- HPVは女性の50～80%以上が生涯で一度は感染するという極めてありふれたウイルス
- しかも、90%以上の感染例は2年以内にHPVが自然に消失

“ HPVワクチンの有効性98～100% ” は誤解を招く

		N	n	Efficacy (96.1% CI)
CIN2+	Vaccine	7,344	1	98.1% (88.4 to 100)
	Placebo	7,312	53	
CIN3+	Vaccine	7,344	0	100% (36.4 to 100)
	Placebo	7,312	8	

Paavonen J et al. Lancet ,2009. 374(9686): p.301-314.

前がん状態になったのは、ワクチン群が7300人中1人、プラセボ群は、7300人中53人。
つまり、53人中52人が前がん状態を免れた。しかし、次のような表現だと

52/53=0.981 つまり 有効率98% (相対リスク減少という)

一般人は「**ワクチンで子宮頸がんになることがほぼ完全に防げる**」と誤解する。

HPVを接種される人にとっての利益は？

ワクチンを打たなければ前がん状態になるリスクは**53/7300**だが、
ワクチンを打てば前がん状態になるリスクは**1/7300**に抑えられる。
従って → リスクは $53/7300 - 1/7300$ だけ減ることになり、
前がん状態になる**絶対的なリスクが $52/7300 = 0.007$ だけ低下**
つまり絶対的なリスクは0.7%しか減少しない。(絶対リスク減少)。

こんなに僅かな利益を得るために、それと引き替えに、重大な
リスクを受け入れる意味があるのか？

接種をする人にとっての真の益対害バランス

- 接種することによって得られる絶対リスク減少
- 接種することによって起きる副作用リスク

